

新年のごあいさつ



対馬市長

財部 能成



新年明けましておめでと
うございます。

皆様におかれましては、ご健勝にて穏やかな新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、皆様には日ごろから市政に対し深いご理解とご支援、ご協力を賜り心から厚く御礼申し上げます。

昨年の対馬は、特に「若者の頑張り」がめざましい一年でした。3200発の花火で夜空を彩らせた「佐須響心会」やB-1グランプリ初出場ながら見事シルバーグランプリに輝いた「対馬とんちゃん部隊」の活躍、たゆまぬ努力で生産者としての最高栄誉である農林水産祭天皇杯を獲得した「真珠組合青年部」など、故郷対馬への熱い思いの発露

としての成果であったように
思います。

また昨年は「人間本来の生き方」や「地域づくり」に對し強い強い若者達が対馬を訪れ、旧来のままの凝り固まった思考の畑に入り、汗を流しながら耕し、柔らかな思考の畑に換えてくれるような動きもありました。明らかに「都会志向」から「田舎志向」へ「経済至上主義」から「精神重視主義」へと地殻変動が近々起こると予感させる場面でもありました。

私は市長就任以来、様々な場面で「これからの日本は縄文時代に戻っても良いとの気が必要である」と吠え、さらに『弥生時代以降のシステムチックな社会や経済という

化け物の尺度に心が侵食される社会を今こそ断ち切る時代が到来している』と説明してきました。21世紀に生きる私達には従来の感覚からかけ離れても良いから、新たな価値観づくりが求められているはずなのです。

「依存からの脱却」「自立」が

「地域の輝き」に通ずる

と以前から申し上げてきたところではありますが、今年も「自立こそが輝きの早道」だと皆様に伝えしていく所存です。そのためには自分自身をよく知り、身の丈にあった産業を自ら動き出し創出する気概が肝要であるとも思います。

昨年中、私は頻繁に『循環』という言葉の口にししました。

市民の皆様誰もが「対馬内

に雇用が沢山あれば子どもたちと一緒に生活できるのに」と念仏のように半世紀以上も唱えて願っていらつしやる事は十分に理解しています。

島特有の「隔絶性」という壁により、多くの雇用を生み出す産業を育てることができませんでした。時空的短縮による功罪の一つなのかもしれませんが、急速な経済の拡がりのスピードについていけないという壁もあります。多くの対馬人はそれらの壁を超えることができず、うなだれ、自らの足下の資源を活かす事なく、さらには島民が持ち得る技術や先人達からの知恵のフィルターを通すことさえもなく、素通りしてしまっていました。

私はこの素通りしている部分に島民が有している技術や知恵を介在させ、さらには外部の力をも注入すれば雇用も生まれ振興が図れると考えています。

また、地勢的条件を最大限いかしながら、国外をも視野に入れた「海」「森林」「地域コミュニティ」「国際ビジネス」「生ゴミ」という分野の5つの地域資源循環システムの進

め方や戦略を、今年中に市民の皆様にお示しすることになります。そこには今まで頭に描いていた雇用形態とは若干異なる産業労働環境の変化をもたらすことでしょうか。従来の固定した思考を超えた対馬方式による雇用が島の浮沈に関わることとなりましょう。

おそらく今後は、旧来の成長し続ける社会での手法や考え方・社会方程式では見通せない、または首を傾げるような現象と遭遇することとなるのではと予想をしています。

未来を託す子ども達に対し、私達人間は今、どのような環境を提供すればよいのかという課題は永遠のテーマです。ここ数年、少子化による学校統合という苦渋の決断を地域住民の皆様にお願いし、学ぶ立場の子どもたちのためにご理解をいただいているところとです。子育て支援から教育環境整備までの施策展開においても、日々変化する社会環境に受動的立場で身を委ねざるをえない子ども達の環境変化に即しつつも根幹部分を忘

れず、的確に提供できるように日々の目配せをしつかりと行つてまいります。

また、対馬の交通インフラは過去より多くの投資がなされてきたものの全国のなかでも脆弱なままです。半世紀前と変わらぬ状況の区間もあるため、今年は大形の市道新設事業に着手する予定です。

今こそ私達は対馬の行く末について真剣に考えねばなりません。多くの取り組まねばならない案件は様々な分野で山積していますが、道のりは険しくとも攻めダルマのごとく果敢に挑戦し続けることを

お約束して年頭にあたったの挨拶といたします。本年が皆様にとりまして素晴らしい一年となりますようご祈念申し上げます。

合的な視点に立つて調査研究を行うとともに市民の意見を市政に反映させるように努めなければならぬ」と規定されておりあります。

さらなる向上、水産業をはじめとする第1次産業の支援策、また公共事業など経済活動の活性化、若者の定住対策などの政策充実が図られることが想定されており、島の大きな飛躍と島民に大きな活力と安心を与えられることを期待しているところであります。

新年のごあいさつ



対馬市議会議長

作元義文



新年明けましておめでとうございます。

健やかに希望に満ちた新春をご家族お揃いでお迎えのことと心からお慶び申し上げます。年頭にあたり市議会を代表して、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

市民の皆様には、日ごろから市政及び議会活動に対しまして、深いご理解と温かいご支援を賜り衷心より厚く御礼申し上げます。

さて、昨年暮れの衆議院議員総選挙により国政においては政権交代が行われましたが、真に地方が望む分権改革が実現し、地方のやる気、知恵と工夫を引き出し、地域に住む人たちのニーズや地域の魅力をいちばんとらえることができる地方が、自ら主役となつて考え、実行できる体制がつけられ、さまざまな行政分野で独自の施策を展開して地方の魅力を引き出しつつ、強い

地方を創出できる行財政システムが確立されることに大いに期待を寄せるものであります。一方、本市においては、昨年4月に対馬市市民基本条例が施行され、この条例により市民、行政、議会のまちづくりにおけるそれぞれの役割が明文化され、議会の責務と役割においては、「市民に開かれた議会運営を行い、地域課題及び市民の意見を把握し、総

この特別措置法は、対馬が国境離島として、我が国の国土、国防政策と日本の領土、領海を守るといふ大きな役割を担っていることの重要性に鑑み、島の活性化に向けたあらゆる政策において、他の離島対策よりさらに特化して強力に国が支援するというものであり、人口流出の抑制対策の必要性から島の生活環境の

創意工夫を重ねながら、より豊かな住みよいまちづくりを目指して、市民皆様方のご期待に答えられるように決意を新たにしております。どうか本年も相変わらぬご支援とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。結びに皆様のご健勝とご繁栄を心からお祈りいたします。年頭の挨拶といたします。